

# 沖縄県立芸術大学附属研究所彙報

## I 平成11年度研究事務状況

### (1) 二部門以上共通

1. 沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究 [担当：加治工真市教授、波照間永吉教授、柳悦州助教授、久万田晋助教授]
2. 沖縄県広域学習サービス・リカレントコース 講座名「芸能の源を考える」
  - 第1回 10月7日 板谷徹（沖縄県立芸大教授）「日本芸能の源流1」
  - 第2回 10月14日 板谷徹（沖縄県立芸大教授）「日本芸能の源流2」
  - 第3回 10月21日 大城學（県教育庁主任専門員）「沖縄の芸能の始源」
  - 第4回 10月28日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の芸能と神々1」
  - 第5回 11月4日 大城學（県教育庁主任専門員）「沖縄の芸能の展開」
  - 第6回 11月11日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の芸能と神々2」
  - 第7回 11月18日 久万田晋（附属研究所助教授）「沖縄の民族芸能の広がり1」
  - 第8回 11月25日 久万田晋（附属研究所助教授）「沖縄の民族芸能の広がり2」
  - 第9回 12月2日 梅田英春（沖縄県立芸大助教授）「東南アジアの芸能と沖縄1」
  - 第10回 12月9日 梅田英春（沖縄県立芸大助教授）「東南アジアの芸能と沖縄2」

### (2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究
  - A 『琉球国由来記』の研究 [担当：波照間永吉教授]
  - B 沖縄の神歌の調査研究
  - C 与那国島の伝統文化の調査研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・川平成雄調査員・上原孝三調査員・平良勝保調査員・飯田泰彦調査員・与那覇仁一調査員]
2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [加治工真市教授]

3. おもろ研究会（平山良明代表）開催 [担当：波照間永吉教授]
4. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究  
[担当：ホルスト・S・ヘンネマン教授]
5. 公開講座（無料）「宮古の歴史物語を読む会」（通年・毎週土曜日開催）  
[担当：波照間永吉教授 講師：平良勝保共同研究員・上原孝三共同研究員]
6. 公開講座（有料）「琉球方言入門」（全10回）[担当：加治工真市教授]
  - 第1回 11月1日 加治工真市（附属研究所教授）「琉球方言の位置づけ」
  - 第2回 11月8日 狩俣繁久（琉球大学助教授）「奄美諸方言について1」
  - 第3回 11月10日 狩俣繁久（琉球大学助教授）「奄美諸方言について2」
  - 第4回 11月15日 高橋俊三（沖縄国際大学教授）  
「おもろ語、組踊語、琉歌語について1」
  - 第5回 11月17日 高橋俊三（沖縄国際大学教授）  
「おもろ語、組踊語、琉歌語について2」
  - 第6回 11月22日 内間直仁（千葉大学教授）「宮古諸方言について」
  - 第7回 11月23日 内間直仁（千葉大学教授）  
「宮古諸方言の親族語彙について」
  - 第8回 11月29日 野原三義（沖縄国際大学教授）  
「沖縄本島諸方言の助詞の体系と表現性1」
  - 第9回 12月1日 野原三義（沖縄国際大学教授）  
「沖縄本島諸方言の助詞の体系と表現性2」
  - 第10回 12月6日 加治工真市（附属研究所教授）「八重山諸方言について」

### (3) 伝統工芸部門

1. 沖縄染織の研究 [担当：柳悦州助教授]
  - A 画像データベース作成のための基礎研究
  - B 鎌倉芳太郎紅型型紙の画像データベース作成と研究
  - C 織物技法研究
2. ラオス織物文化研究 [担当：柳悦州助教授]
3. シルクロード沿い諸国の手織り機研究 [担当：柳悦州助教授]
4. 沖縄伝統工芸の研究 [担当：島袋常秀助教授]

5. 公開講座（無料）「織物入門」（全7回）

平成12年2月2日～18日 [担当：柳悦州助教授]

第1回 2月2日 アダンの葉で馬グラーとコースターを作る

第2回 2月4日 すだれを作る

第3回 2月7日 機を準備する

第4回 2月9日 織物を織る

第5回 2月14日 いろいろな織り方

第6回 2月16日 素材を知る

第7回 2月18日 いろいろな織物を見る

(4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]

A 沖縄本島エイサーの調査研究

B 奄美大島の民俗芸能・音楽の調査研究

2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]

3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：久万田晋助教授]

4. アジア諸地域の伝統音楽芸能調査研究

A タイ伝統音楽芸能調査 [担当：梅田英春助教授・久万田晋助教授]

平成12年3月8日～22日、タイ国バンコク市内の音楽学校・楽器製造所調査、タイ国南部の影絵芸能調査を実施。

B インドネシア・バリ島ガムラン音楽の調査研究 [担当：梅田英春助教授]

5. 観光人類学読書会 [担当：梅田英春助教授・久万田晋助教授]

## Ⅱ 平成12年度研究業務状況

### (1) 二部門以上共通

1. 沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・柳悦州助教授・島袋常秀助教授・久万田晋助教授]
2. 沖縄県立芸術大学放送利用大学公開講座「沖縄の民俗文化と芸術」（全6回）  
[担当：波照間永吉教授・柳悦州助教授・島袋常秀助教授・久万田晋助教授  
放送：沖縄テレビ放送] 平成13年2月11日～3月18日、毎週日曜日の深夜  
1時20分～1時50分（各30分）
  - 第1回 2月11日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の神々の説話と形象－『琉球国由来記』などの説話から－」
  - 第2回 2月18日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の神々の説話と形象－オモロから現代の祭祀まで－」
  - 第3回 2月25日 久万田晋（附属研究所助教授）「沖縄の歌と踊り」
  - 第4回 3月4日 柳悦州（附属研究所助教授）「沖縄の織物」
  - 第5回 3月11日 島袋常秀（附属研究所助教授）「沖縄の陶器」
  - 第6回 3月18日 久万田晋（附属研究所助教授）「アジアのなかの沖縄音楽」

### (2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究
  - A 沖縄の祭祀習俗の研究 [担当：波照間永吉教授]
  - B 沖縄の神歌の調査研究 [担当：波照間永吉教授]
  - C 与那国島の伝統文化の調査研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・川平成雄調査員・上原孝三調査員・平良勝保調査員・飯田泰彦調査員・与那覇仁一調査員査員]
  - D 『おもろさうし』テキスト作成 [担当：波照間永吉教授]
2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [担当：加治工真市教授]
3. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究 [担当：ホルスト・s・ヘンネマン教授]

5. 公開講座（無料）「宮古の歴史物語を読む会」（毎週土曜日開催・通年）  
[担当：波照間永吉教授 講師：平良勝保共同研究員・上原孝三共同研究員]
6. 公開講座（無料）「映画でみる沖縄文化論」平成13年1月29日～2月7日  
（全6回）[担当：波照間永吉教授 講師：外間守善客員教授]  
第1回 テーマ：美学・哲学・思想
  - ・1月29日 「戦争と平和」
  - ・1月30日 「風と共に去りぬ」
  - ・1月31日 「沖縄健児隊」「ひめゆりの塔」「ひめゆり学徒の証言」
 第2回 テーマ：戦時下の青春
  - ・2月5日 「カサブランカ」「ナヴィーの恋」
  - ・2月6日 「慕情」
  - ・2月7日 「哀愁」
7. 公開講演会「琉球文化の映像——鎌倉芳太郎の残してくれたもの——」平成13年1月29日 [担当：波照間永吉教授 講師：高草茂氏]
8. 公開講演会「いくつもの日本」平成13年2月10日 [担当：波照間永吉教授 講師：赤坂憲雄氏]
9. おもろ研究会（平山良明代表：毎週金曜日開催・通年）[担当：波照間永吉教授]

### (3) 伝統工芸部門

1. 沖縄染織の研究 [担当：柳悦州助教授]
  - A 画像データベース作成のための基礎研究
  - B 鎌倉芳太郎紅型型紙の画像データベース作成と研究
  - C 織物技法研究
2. ラオス織物文化研究 [担当：柳悦州助教授]
3. 沖縄伝統工芸の研究 [担当：島袋常秀助教授]
4. 公開講座（有料）「紅型入門」（全7回）  
平成12年9月11日～27日 [担当：平田美奈子附属研究所共同研究員]  
第1回 9月11日 型染め（紅型）について  
第2回 9月13日 デザインを型にする

- 第3回 9月18日 型を彫る
- 第4回 9月20日 型紙を完成させる
- 第5回 9月22日 糊置きと地入れ
- 第6回 9月25日 色差しと隈取り
- 第7回 9月27日 水元・まとめ

#### (4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]
  - A 沖縄本島における創作エイサーの調査研究
  - B 奄美大島の民俗芸能・音楽の調査研究
2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]
3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：久万田晋助教授]
4. アジア諸地域の伝統音楽芸能調査研究
  - A インドネシア・バリ島ガムラン音楽の調査研究 [担当：梅田英春助教授]
  - B 沖縄県広域学習サービス・リカレントコース講座名「バリ島のガムラン音楽——講義と実践——」（全10回）  
平成12年10月12日～12月21日 [担当：梅田英春助教授]
  - 第1回 10月12日 講義「インドネシア音楽の概論」
  - 第2回 10月19日 講義「世界の楽器からみたガムラン」
  - 第3回 10月26日 実践「楽器に触れる」
  - 第4回 11月2日 実践「各楽器の演奏方法」
  - 第5回 11月9日 実践「曲を覚える」
  - 第6回 11月16日 講義「バリの芸能」
  - 第7回 11月30日 実践「曲を覚える」
  - 第8回 12月7日 実践「アンサンブルを楽しむ」
  - 第9回 12月14日 実践「アンサンブルを楽しむ」
  - 第10回 12月21日 発表と講評
5. ポピュラー文化理論研究会（毎週火曜開催・通年）  
[担当：梅田英春助教授・久万田晋助教授]

### Ⅲ 主要研究業績（平成11年1月～平成12年12月）

#### 1) 研究所員主要研究業績

1. 著書・編書
2. 論文
3. 作品発表・公演
4. 研究発表
5. 解説等
6. 講演・放送
7. その他

#### 2) 助成研究

1. 平成11年度～12年度において研究代表者、研究分担者となっている科学研究費研究
  - a 研究代表者となっているもの
  - b 研究分担者となっているもの
2. 沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成研究
3. その他

#### (1) 研究所長

**波照間永吉**（平成11年度より所長。教授、専任教員）

- 1) 1. 『南島祭祀歌謡の研究』砂子屋書房、平成11年12月1日。
2. 「森田孫榮氏の人と業績」『琉球新報』、平成11年2月23日。
2. 「『おもろさうし』と現代」『多言語文化のディスカール——民衆文化と芸術——』多賀書店、平成11年2月28日。
2. 「【問題提起】オモロ（神歌）と神話・伝説・世間話——沖縄諸島——」『奄美・沖縄民間文芸研究』22号、奄美・沖縄民間文芸研究会、平成11年8月25日。
2. 「琉球文学にみる憑霊表現」『南海日々新聞』平成11年9月7日。
2. 「八重山芸能の特質その二、三について——八重山芸能選に寄せて——」『八重山芸能選パンフレット』石垣市文化協会、平成11年12月9日。
2. 「琉球文学にみる憑霊表現——憑霊説話と神託をめぐって——」『奄美・沖縄民間文芸研究』23号、奄美・沖縄民間文芸研究会、平成12年3月31日。
2. 「《解説》八重山歌の花綵」『八重山歌の花綵——八重山古典民謡保存会大底朝要研究所第二回発表会・那覇公演パンフレット』八重山古典民謡保存会大底朝要研究所、平成12年6月3日。
2. 「『おもろさうし』にみる古琉球の想念」『日本語学』第19巻第8号、明

治書院、平成12年7月10日。

4. 「鎌倉芳太郎収集の沖縄関係文献資料」平成10年度沖縄県立芸術大学附属研究所公開講座（無料）「鎌倉芳太郎と沖縄文化」（全6回）の第2回目を担当、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年1月29日。
4. 「沖縄の御嶽・八重山の御嶽」全国竹富島文化協会平成11年度「星砂の島」文化講演会、平成11年2月11日。
4. 「琉球文学にみる憑霊表現——八重山の事例を中心に——」第96回沖縄・八重山文化研究会、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年10月27日。
4. 「オモロと奄美」第13回沖縄で奄美を考える会、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成12年7月1日。
5. 解説「ウシデーク」「ウタカビ」「ウムイ」「沖縄語」「クエーナ」「組踊」「チョンダラー」「アヤグ」「アヨー」「沖縄民謡」「おもろさうし」「クイチャー」「南島歌謡」「ミセセル」「琉歌」ユンタ『日本民俗学大辞典』吉川弘文館、平成11年。
5. 解説「八重山の舞踊」沖縄国際大学南島文化研究所第21回南島文化市民講座、沖縄国際大学、平成11年11月12日。
6. 講演「沖縄の文化伝統とくらし」ライフプラン研修講座、平成11年6月17日。
6. 講演「琉球文学にみる憑霊表現」奄美・沖縄民間文芸研究会1999年度大会記念講演、名瀬市立奄美博物館、平成11年9月12日。
6. 講演「島々の歴史と文化を訪ねて——八重山編——」沖縄県公文書館歴史講座、沖縄県公文書館、平成12年1月19日。
6. 講演「八重山の歴史をみる」全国竹富島文化協会第4回〈星砂の島〉文化講演会、平成12年2月12日。
6. 講演「沖縄の文化」沖縄県中小企業家同友会第6期同友会大学、平成12年6月17日。
6. 放送「うたつなぎ沖縄 オモロ」太陽カンカン600、NHK沖縄放送局、平成12年4月25日。
6. 放送「うたつなぎ沖縄 八重山民謡」太陽カンカン600、NHK沖縄放送局、平成12年10月17日。



7. 「外間守善『海を渡る神々——死と再生の原郷信仰——』『琉球新報』、平成11年7月4日。
  7. 「大浜用能翁と『八重山島歌節寄』——『大浜用能流保存会』創立三〇周年記念公演に寄せて——」『大浜用能流保存会創立三〇周年記念公演パンフレット』大浜用能流保存会、平成12年11月4日。
  7. 「“みるく世”への思い——竹婦連結成三〇周年記念芸能大会に寄せて——」『八重山毎日新聞』平成12年10月25日。
  7. 「座談会 研究の今・未来——南島祭祀歌謡——」『沖縄タイムス』平成12年2月29～3月3日。
- 2) 1.b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究、研究代表者：加治工真市。

## (2) 芸術文化学部門

加治工真市（教授、兼任教員）

- 1) 2. 「琉球方言とその魅力」水之江有一編『多言語文化のディスクール—民衆文化と社会と芸術—』（“DISCOURSE ON MULTI-LINGUAL CULTURES—POPULAR CULTURES, SOCIETIES AND ART—”）、多賀出版、平成11年2月、pp. 473-481。
2. 「琉球文化と日本」水之江有一編『多言語文化のディスクール—民衆文化と社会と芸術—』（“DISCOURSE ON MULTI-LINGUAL CULTURES—POPULAR CULTURES, SOCIETIES AND ART—”）、多賀出版、平成11年2月、pp. 503-514。
2. 「沖縄県八重山竹富方言音韻論」法政大学沖縄文化研究所八重山研究会代表中俣均編『沖縄八重山研究』（文部省科学研究費研究成果刊行費補助出版）、平成11年3月。
2. 「竹富方言の基礎語彙—分野3、植物—」『琉球の方言』法政大学沖縄文化研究所、平成11年3月、pp. 95-107。
2. 「ネフスキーと宮古方言」『国文学 解釈と鑑賞』平成12年1月号（特集：方言の一世紀）、至文堂、平成12年1月。
2. 「竹富方言の基礎語彙—分野4、人体—」『琉球の方言』法政大学沖

縄文化研究所、平成12年3月、pp.87-111。

2. 「八重山方言と文化」『日本語学』平成12年7月号（特集：沖縄のこことばと文化）、明治書院、平成12年7月。
  2. 「宮古方言概説」『琉球・東アジアの人と文化 高宮廣衛先生古希記念論集』下巻、高宮廣衛先生古希記念論集刊行会、平成12年10月。
- 2) 1.a 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究。

### Horst Siegfried Henneman ホルスト・S・ヘンネマン（教授、兼任教員）

- 1) 2. 「琉球王朝の茶の湯」『茶道雑誌』第63巻第2号、河原書店、平成11年2月。
6. 講演「琉球王朝の茶の湯について」浦添市文化協会、平成11年7月25日。
6. 講演「茶の湯の文化」平成11年度沖縄県広域学習サービス事業講座、沖縄県立糸満青年の家、平成11年11月2日。
6. 講演「鹿児島と沖縄の茶道文化」鹿児島・沖縄文化交流講演、平成11年11月15日。（『「鹿児島沖縄文化交流」シンポジウム記念誌』社団法人茶道裏千家淡交会、pp.42-46、57-59、平成12年3月31日。）

### (3) 伝統工芸部門

島袋常秀（助教授、兼任教員）

柳 悦州（助教授、専任教員）

- 1) 1. 『沖縄染織文化の比較研究のための画像データベースの基礎的構築』科学研究費助成金研究成果報告書、平成11年4月。
1. 『久米島紬 あゆみとわざ』（共著）沖縄県指定無形文化財久米島紬保存伝承教本「技術・技法編 糸作り、資料編 絹、日本民芸館所蔵の久米島織物資料解説」を執筆、沖縄県仲里村教育委員会、平成11年3月。
1. 『絹の劣化に関する研究』信州大学工学系研究科 後期博士課程学位論文、平成12年9月。
2. 「画像データベースの基礎的構築」『沖縄芸術の科学』第11号、平成11年3月、pp.1-23。

2. 「Structure and deterioration of silk fabrics of the edo period」  
『日本蚕糸学雑誌』69, 平成12年4月, pp.105-109.
  2. 「Deterioration of Silk Fabrics and Their Crystallinity」『Textile Res. J.』78(10), 平成12年10月, pp.871-875.
  3. 「経絣紬着物」第73回《国展》、東京都立美術館、平成11年4月。
  3. 「経絣紬着物」第74回《国展》、東京都立美術館、平成12年4月。
  4. 「ラオスの腰機・細帯機」沖縄染織研究会、平成12年5月。
  6. 講演「ラオスの織物」「ウズベキスタンの織物」「沖縄の絣」南風原・アジアかすりロード祭織物レクチャー、平成12年11月。
  7. 解説記事「久米島紬の歩みと可能性」『図録 久米島紬のわざ』沖縄県仲里村教育委員会、平成11年3月。
  7. 中国新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン織機調査、シルクロード学研究センター助成課題研究、平成11年6月17日～7月17日。
  7. 国立民族学博物館イラン織物調査に私費参加、平成11年7月31日～9月8日。
  7. 中国雲南省少数民族調査、文部省海外科学研究費、平成11年12月15日～27日。
  7. 解説記事「八重山上布」沖縄県教育委員会編『工芸王国 - きらめく手わざの世界を沖縄から』（＜読谷山花織＞企画展図録）、平成12年2月。
  7. 「糸づくり」『久米島紬ものがたり（久米島紬保存伝承読本）』（共著）、沖縄県仲里村教育委員会、平成12年3月。
  7. 「美術月評」『沖縄タイムス』平成12年2月、5月、11月を担当。
  7. 解説記事「アトラス（ウズベキスタンの絹糸縺子織り）」『絣 南風原・アジア』（南風原・アジア絣ロードまつり図録）、平成12年11月。
- 2) 1.b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究、研究代表者：加治工真市。

#### (4) 伝統芸能部門

宮城能鳳（教授、兼任教員）

- 1) 3. 平成11年1月5日、迎春の舞～新春を寿ぐ～（県立郷土劇場）にて、雑

- 踊「むんじゅる」を踊る。
3. 平成11年1月10日、能の周辺〈能と組踊〉公演（横浜能楽堂）にて、組踊「銘苺子」に出演、天女の役。
  3. 朝日新聞社創刊120周年記念〈アジアの風・王朝の華琉球舞踊～宮城能鳳・佐藤太圭子の世界～〉（浜離宮ホール）にて、「老人踊」（台詞入り）、「宮平良萬歳」、「鳩間節」、「諸屯」を踊る。
  3. 平成11年2月13日、沖縄伝統舞踊保持者定期公演（県立郷土劇場）にて、古典舞踊「柳」を踊る。
  3. 平成11年3月6日、第4回阿吽の会組踊研修発表会（具志市民芸術劇場）にて、組踊「大川敵討」の唱えに出演（共演：嘉手苺林一他）。
  3. 平成11年3月7日、平成10年度組踊保存会定期公演（県立郷土劇場）にて、組踊「奇縁の巻」に出演、をなぢやら役（共演：嘉手苺林一他）。
  3. 沖縄県立芸術大学第6回卒業演奏会（県立芸大奏楽堂）にて、組踊「手水の縁」抜粋～出合・忍びの場～の演出・指導。
  3. 沢田文彦退官記念チャリティーコンサート（那覇市民会館）にて、老人踊「かぎやで風」（口上入り）を踊る。
  3. 平成11年4月10日、前川朝文保持者認定記念公演〈千気新たに〉（那覇市民会館）にて、組踊「手水の縁」に出演、玉津役。
  3. 平成11年4月17日、具志川村改善センターにて、舞踊「高平良萬歳」を踊る。
  3. 〈伝統の至芸男性舞踊家の競演～嘉利吉の御座～〉（琉球新報ホール）にて、舞踊「花風」、「鳩間節」、「金細工」、「馬山川」を踊る。
  3. 平成11年5月29日、国立劇場公演〈道成寺の舞踊〉（東京国立劇場）にて、組踊「執心鐘入」に出演、宿の女役（共演：東江祐吉他）。
  3. 平成11年6月18日、組踊創始280年記念組踊特別鑑賞会（県立郷土劇場）にて、組踊「執心鐘入」の演出、指導。
  3. 平成11年8月18日、平成11年度初任者研修〈国際理解者教育・沖縄の伝統文化〉鑑賞会（具志川市民芸術劇場組踊）にて、組踊「執心鐘入」に出演、宿の女役（共演：新垣悟、嘉手苺林一他）。
  3. 平成11年9月19日、平成11年度重要無形文化財組踊〈特別鑑賞会〉

- (静岡県民会館)にて、組踊「銘苺子」に出演(天女の役)、舞踊「諸屯」を踊る。
3. 宮城女学院大学組踊公演(宮城女子学院大学)にて、組踊「執心鐘入」宿の女役「萬歳敵討」の指導、舞踊「天川」を踊る。
  3. 平成11年10月16日、平成11年度重要無形文化財〈組踊特別鑑賞会〉(鹿児島県民ホール)にて、組踊「貞孝婦人」に出演、乙鶴の役。
  3. 平成11年10月29日、玉城朝薫生誕315年記念組踊特別鑑賞会21世紀組踊 in 小湾(浦添市小湾、特設会場)にて、組踊「萬歳敵討」に出演、謝名の子役(共演:嘉手苺林一他)。
  3. 平成11年12月12日、琉球芸能～王朝の舞と響き～(水戸芸術館コンサートホールATM)にて、組踊「執心鐘入」に出演(宿の女役)、古典舞踊「柳」を踊る。
  3. 平成11年12月26日、沖縄放送セミナー〈組踊と狂言について〉(那覇市中央会館)にて、「組踊と能・狂言」について講師を勤める。
  3. 平成12年1月30日、野村音楽協会75周年記念芸能公演(宜野湾市民会館)にて、老人踊「かぎやで風」(口上入り)を踊る。
  3. 平成12年2月13日、伝統組踊保存会定期公演(県立郷土劇場)にて、組踊「貞孝婦人」に出演、乙鶴の役(共演:瀬底正憲他)。
  3. 平成12年2月18日、宮城能鳳組踊研究会“披”鳳組踊講演会(県立郷土劇場)にて、組踊「執心鐘入」(宿の女役)、組踊「二童敵討」(共演:嘉手苺林一、新垣悟他)。
  3. 平成12年2月19日、平成11年度伝統舞踊保持者公演(県立郷土劇場)にて、雑踊「花風」を踊る。
  3. 平成12年2月27日、野村流音楽協会舞踊地謡研修部発表会(具志川市民芸術劇場)にて、二才踊「高平良萬歳」を踊る。
  3. 平成12年3月26日、野村流音楽協会組踊地謡研修部修了公演(具志川市民芸術劇場)にて、組踊「銘苺子」(天女の役)、組踊「孝行の巻」(共演:嘉手苺林一、石川直也他)に出演。
  3. 平成12年6月26日～7月8日、九州・沖縄サミット古典芸能団欧州公演(イギリス・ドイツ)にて、組踊「萬歳敵討」に出演、舞踊「老人踊」

他数番を踊る。

3. 平成12年7月17日、島袋正雄・照喜名朝一人間国宝認定祝賀記念公演（沖縄コンベンション劇場棟）にて、二才踊「久志若按司道行口説」を踊る（高江州清勝他）。
3. 平成12年7月25日、平成12年度かりゆし芸能公演鳳乃会～綾羽の舞～2000（県立郷土劇場）にて、創作「忍び」を発表。
3. 平成12年7月29日、県教育庁県立学校教育課洋上研修芸能鑑賞会（豊見城中央公民館）にて、演目解説を務める。
3. 平成12年8月23日、沖縄県立教育センター平成12年度初任者研修＜沖縄の伝統文化＞（具志川市民芸術劇場）にて、演目解説を務める。
3. 平成12年9月3日、平成12年度重要無形文化財「組踊」特別鑑賞会（京都綾部市県民会館）にて、組踊「執心鐘入」に出演、宿の女役。
3. 平成12年9月17日、＜傘寿で挑む＞島袋光史独演会（県立郷土劇場）にて、舞踊「加那よう天川」を踊る（共演：佐藤大圭子）。
3. 平成12年10月21日、千年の響き琉球舞踊～宮城能鳳の世界～（東京浜離宮ホール）にて、舞踊「諸屯」、「柳」、「花風」、「金細工」を踊る。
3. 平成12年10月28日、平成12年度重要無形文化財「組踊」特別鑑賞会（清水市民会館）にて、組踊「西南敵討」に出演、若按司役。
3. 平成12年11月8日、東京音楽大学民族音楽研究所平成12年度公開講座＜組踊鑑賞会＞（東京音楽大学講堂）にて、組踊「執心鐘入」の演技指導。
3. 平成12年11月10日、県立芸術大学音楽学部開学10周年記念第10回定期公演（沖縄県立芸術大学奏楽堂）にて、組踊「萬歳敵討」の演技指導。
6. 平成11年6月24日、NHK教育テレビ芸能花舞台＜琉球王朝・雅を舞う＞に出演、古典女踊「諸屯」を踊る。
6. NHKテレビ 日本のとときめき歴史館～芸能王国・沖縄の誕生～（NHK大阪放送局）に出演、組踊「二童敵討」の指導、舞踊「天川」を踊る。
6. 平成11年6月24日、NHK教育テレビ芸能花舞台＜琉球王朝・雅を舞う＞（NHK東京放送局）に出演、古典女踊「諸屯」を踊る。
6. 平敷屋朝敏生誕300年記念NHK沖縄の歌と踊りのつどい（読谷鳳ホール）にて、組踊「手水の縁」の演技指導、舞踊「高平良萬歳」指導。

**梅田英春（助教授、兼任教員）**

- 1) 2. 「バリ島のガムラン音楽の「村落の様式」が意味するもの——トゥンジュク村の音楽様式に関する一考察」『沖縄県立芸術大学紀要』 8、2000年、pp. 1-24。
2. 「グンデル・ワヤン・バテルの概観——バリ島のガムラン編成の一形態」『MOUSA沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』 1、2000年、pp. 49-61。
3. 平成11年7月31日、バリ島 ガムラン サマーナイトライブ '99 in 天王洲（天王洲アイル シーフォート・スクエア）にて、ガムラン演奏。
3. 平成11年8月28日、ケチャ・ワークショップ（港南区公会堂）にて、指導。
3. 平成11年8月29日、花・仮面・祈り～バリ島のガムランと舞踏～（地球市民かながわプラザ）にて、ガムラン演奏。
3. 平成11年9月23日、アジアの響き（大阪国際交流センターホール）にて、ガムラン演奏。
3. 平成12年1月29日、バリ島ガムラン音楽ワークショップと演奏（東京都国分寺第10小学校）にて、画構成、司会、演奏。
3. 平成12年2月11日、NHK名曲アルバム《ラサ・サヤ》のガムラン部分の作曲・演奏（録音2月11日、放映は3月いっぱい）。
3. 平成12年4月15日、＜春の丘に南の島から——2000年度慶應義塾大学日吉キャンパス入学記念行事＞（慶應義塾大学日吉キャンパス）にて、ガムラン演奏とお話。
3. 平成12年6月27日、2000年バリ芸術祭 PESTA KESENIAN BALI ガムラン公演（インドネシア・バリ州アートセンター）にて、ガムラン演奏・朗唱。
3. 平成12年7月22日、ワヤン公演（栃木県南那須郡大江自治会集会場、）にて、ダラン（人形遣い）。
3. 平成12年10月20日、バリ島ガムラン音楽ワークショップと演奏（川崎市今井小学校）にて、企画構成、司会、演奏。
3. 平成12年11月4～5日、南風原・アジア絃ロードまつり（南風原町）にて、ガムラン演奏、司会。

4. 「〈見られる〉芸能から〈見せる〉芸能へ」東洋音楽学会沖縄支部第25回定例研究会、沖縄県立芸術大学、平成11年3月6日。
  4. 「実践としての研究、実践の中の研究——沖縄の文化観光政策への提言」東洋音楽学会第50回大会、東京学芸大学、平成11年10月17日。
  4. 「〈見られる〉芸能から〈見せる〉芸能へ——バリ島観光化による芸能の変容の事例から」沖縄民俗学会11月例会、沖縄県立芸術大学、平成11年11月20日。
  4. 「バリ島のガムラン音楽の〈村落の様式〉が意味するもの」東洋音楽学会428回定例研究会、上野学園大学、平成12年2月5日。
  4. 「タイ影絵芝居ナン・タルン調査報告」東洋音楽学会沖縄支部定例研究会、沖縄県立芸術大学、平成12年6月3日。
  4. 「バリのワヤンの上演技法——人形遣いダランの身体技法を中心に」日本スポーツ人類学会例会、早稲田大学、平成12年10月20日。
  6. 「東南アジアの芸能と沖縄 (1)」平成11年度沖縄県広域学習サービスリカレントコース公開講座〈芸能の源を考える〉、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年11月18日。
  6. 「東南アジアの芸能と沖縄 (2)」平成11年度沖縄県広域学習サービスリカレントコース公開講座〈芸能の源を考える〉、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年11月25日。
  6. 講演「バリ島のガムランの講義と実践」、平成12年度沖縄県広域学習サービスリカレントコース（全9回講義・実技指導）、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成12年10月12日～12月21日。
  6. 放送「バリ島のガムランに関するインタビュー」太陽カンカン600、NHK沖縄放送局、平成12年12月19日放映。
  7. エッセイ「神々への捧げ物——バリの宗教儀礼と花」『小原流插花』no. 578、pp. 18-19。
  7. タイ国民族音楽芸能調査、平成12年3月8日～22日、同行：久万田晋助教授。
- 2) 3. 国立民族学博物館共同研究「スハルト政権崩壊後のインドネシア地方社会に関する研究」に参加、平成12年度、研究代表者：中村潔。



## 久万田晋（助教授、専任教員）

- 1) 2. 「戦後沖縄のマス・メディアの状況と新民謡様式の展開－普久原恒勇の作品を中心に－」 藤井知昭監修 『Chubu Institute for Advanced Studies Series』 1（国際学術フォーラム「伝統文化とグローバリゼーション－アジアにおけるポピュラーカルチャーの形成と発展－」）、中部高等学術研究所、平成12年2月、pp. 67-74。
2. 「沖縄エキゾチシズムの現在」『国際交流』第39号（特集：ポスト観光社会への模索）、国際交流基金、平成12年10月、pp. 31-35。
4. 「民族芸能エイサー－戦後沖縄社会と変革し続ける文化運動－」「音楽の概念と行動の比較研究」研究会（代表者：櫻井哲男）、大阪：国立民族学博物館、平成11年1月9日。
4. 「中国少数民族と沖縄の音楽について」 沖縄と雲南省少数民族の基層文化の比較研究合同研究会、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年1月18日。
4. 「戦後沖縄のマス・メディアの状況と新民謡様式の展開－普久原恒勇の作品を中心に－」 国際学術フォーラム「伝統文化とグローバリゼーション－アジアにおけるポピュラーカルチャーの形成と発展－」、名古屋市：名古屋国際ホテル、平成11年2月26日。
4. 「戦後の沖縄研究をふりかえる 音楽学・芸能学から」 沖縄文化協会1999年度公開研究発表会シンポジウム「戦後の沖縄研究をふりかえる」にパネリストとして参加・発表、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年5月9日。
4. 「イベントを通じて変貌する沖縄のエイサー－民俗芸能から民族芸能へ－」 日本民俗音楽学会第13回京都大会シンポジウム「イベントと民俗音楽」にパネリストとして参加・発表、京都市：京都教育大学、平成11年10月30日。
4. 「音文化研究への今後の展望」 中部高等学術研究所共同研究会、愛知県春日井市：中部大学リサーチセンター、平成12年1月30日。
4. 「沖縄のポピュラー音楽と地域アイデンティティの構築－新民謡から沖縄ポップへ－」 空間論研究会、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、

平成12年3月4日。

4. 「タイ影絵芝居調査報告」(梅田英春と共同発表) 東洋音楽学会沖縄支部第28回定例研究会、那覇市：沖縄県立芸術大学、平成12年6月3日。
4. 「沖縄音楽の聴かれ方」日本ポピュラー音楽学会第12回大会ワークショップB「日本におけるアジアン・ポップの聴かれ方ー受容・表象・イメージ構築ー」にパネリストとして参加・発表、埼玉県：淑徳大学、平成12年11月19日。
4. 「ポピュラー音楽における沖縄へのまなざしー佐原一哉論を中心にー」(宮西桐子と共同発表) 日本ポピュラー音楽学会関西地区2000年度第5回例会、大阪：関西大学、平成12年12月23日。
6. 講演「沖縄音楽研究の現在ー民俗音楽・ポピュラー音楽を中心にー」東洋音楽学会沖縄支部第26回定例研究会(音楽情報科学研究会(SIGMUS)との合同例会)、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年5月29日。
6. 講演「近代沖縄におけるポピュラー音楽の展開ー新民謡から沖縄ポップへー」大阪音楽大学楽理研究室特別講義、豊中市：大阪音楽大学、平成11年7月2日。
6. 講演「沖縄の民族芸能の広がり(1)(2)」平成11年度沖縄県広域学習サービス リカレントコース公開講座「芸能の源を考える」第7、8回(全10回)、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、平成11年11月18日・25日。
6. 講演「沖縄におけるエイサーの源流、そして戦後の展開」沖縄市平和文化振興課平和ガイド養成講座第9回(全11回)、沖縄市役所、平成11年12月2日。
6. 講演「沖縄音楽の聴かれ方」特別企画講義「ポピュラー音楽と日本人」、国分寺市：東京経済大学、平成11年12月8日。
6. 講演「世界の楽器からみたガムラン」平成12年度沖縄県広域学習サービスリカレントコース公開講座「バリ島のガムラン音楽ー講義と実践ー」第2回(全10回)、那覇市：沖縄県立芸術大学附属研究所、平成12年10月19日。
6. 講演「沖縄ポップとアイデンティティ」国際交流基金アジアセンター

- 2000年度アジア理解講座第2期「アジアのポピュラー音楽と社会変動」、  
東京：国際交流基金アジアセンター、平成12年11月20日。
7. 発表要旨「与論島十五夜踊」「龍郷町秋名のショチョガマ・平瀬マンカイ」『沖縄で奄美を考える会会報』第3号、沖縄で奄美を考える会、平成11年2月、pp. 4-6。
  7. 発表要旨「民族芸能エイサー～研究の現状と今後の課題～」『東洋音楽学会沖縄支部通信』NO. 23、東洋音楽学会沖縄支部、平成11年2月、pp. 2-3。
  7. 「沖縄・奄美の音楽」『最新 高校の音楽2 指導の手引き』音楽之友社、平成11年、pp. 114-115。
  7. 「奄美の八月踊り」『月刊 琉球舞踊』1999年5月号、p. 35。
  7. 談話「沖縄ポップの魅力を語る」『先生のための音楽修学旅行シリーズ (1) 沖縄』音楽之友社、平成11年5月、pp. 43-47。
  7. 「沸騰する沖縄の民族芸能エイサー」『本田安次著作集 日本の伝統芸能 付録十九』錦正社、平成11年9月、pp. 6-8。
  7. 「エイサーとは何か」新谷尚紀編著『読む・知る・愉しむ 民俗学がわかる事典』日本実業出版社、平成11年9月、pp. 300-301。
  7. 「エイサー」「古典音楽」池澤夏樹（編集代表）『オキナワなんでも辞典』CD-ROM版、(有) インパラ、平成11年。
  7. 「音楽概観1999 覆面座談会 沖縄ポップの今」『沖縄文芸年鑑 1999年版』沖縄タイムス社、平成11年12月、pp. 24-26。
  7. 「沖縄の音をめぐる本の旅」『読書探検』no. 33、大阪大学生生活協同組合、平成12年、pp. 5-6。
  7. シンポジウム記録「イベントと民俗音楽」（日本民俗音楽学会第13回京都大会シンポジウム）『民俗音楽研究』第25号、平成12年、pp. 57-68。
  7. 「伝統芸能の広がり」「沖縄音楽の戦後」「沖縄ポップの時代」の項目（財）沖縄県文化振興会公文書管理部資料編集室（編）『概説 沖縄の歴史と文化』沖縄県教育委員会、平成12年3月、pp. 124-127。
  7. 「日本民俗音楽学会報告」『季刊エクスムジカ ExMusica』創刊号、有限会社ミュージックスケイプ、平成12年6月、pp. 230-231。

7. 「沖縄から奄美の芸能を見る」(シリーズ：奄美21世紀への序奏)『南海日日新聞』平成12年8月16日、4面。
  7. 研究発表記録「音文化研究(音楽・芸能)の展望」『中部高等学術研究所共同研究会「諸民族の音文化(音楽)研究の課題と展望」－新たな世紀を視座に入れつつ－』中部高等学術研究所、平成12年、pp. 43-65。
  7. 「エイサーの今昔」(シリーズ：「謡たい踊たい 沖縄芸能の百年」6)『沖縄タイムス』平成12年10月5日夕刊号、芸能2面。
  7. 「沖縄ポップの台頭」(シリーズ：「謡たい踊たい 沖縄芸能の百年」14)『沖縄タイムス』平成12年11月13日夕刊号、芸能2面。
  7. 「音楽概観2000」『沖縄文芸年鑑 2000年版』沖縄タイムス社、平成12年12月、pp. 27-29。
- 2) 1.b 「沖縄におけるエイサー芸能の動態の総合的研究」平成9～11年度基盤研究C、研究代表者：板谷徹(沖縄県立芸術大学教授)。
- 1.b 「沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究」平成10～12年度国際学術研究、研究代表者：加治工真市(沖縄県立芸術大学教授)。
- 1.b 「尚育王代における琉球芸能の総合的研究」平成12～14年度基盤研究B、研究代表者：板谷徹(沖縄県立芸術大学教授)。
- 1.b 「奄美沖縄諸島における儀礼歌謡の収集・研究とデータベース化」平成12～15年度基盤研究B、研究代表者：玉城政美(琉球大学教授)。
2. 「沖縄の戦後ポピュラー音楽文化の普及と展開－メディア文化論／ポピュラー音楽学的アプローチによる研究－」平成12年度サントリー文化財団助成研究、研究代表者：岡田朋之(関西大学)。